

レジリアンスプロジェクト第2回ワークショップ

日時： 平成19年5月11日（金）14:00-18:00 5月12日（土）8:30-17:00

場所： カリアック（商工会議所福利研修センター）

〒431-1207 静岡県浜松市村楠町4597

Tel: 053-484-4155/Fax: 053-484-4150; URL: <http://www.curreac.co.jp>; E-mail: gd@curreac.co.jp

プログラム（発表10分、質疑10分）

5月11日（金）カリアック第11研修室

14:00-14:15 受付

14:15-14:30 開会の挨拶・レジリアンスプロジェクトの経過説明
「社会・生態システムの脆弱性とレジリアンス」

（司会 梅津）

14:30-14:50 インドタミールナドゥの降水変動

谷田貝 亜紀代（地球研）、V. Geethalakshmi（タミルナドゥ農業大学）

14:50-15:10 津波による土壌および地下水の塩性被害からの回復

久米 崇（鳥取大学乾燥地研究センター）

15:10-15:20 休憩

（司会 真常）

15:20-15:40 ザンビア東部州ミオンボ林における土壌特性値の空間変異

野呂 葉子（京都大学大学院農学研究科）

15:40-16:00 生業技術の把握とその多様性の評価

宮寄 英寿（地球研）

16:00-16:20 適正技術のための土壌管理オプションの融合

Moses MWALE（ザンビア農業研究所（ZARI））

（司会 LEKPRICHAKUL）

16:20-16:40 農家家計の脆弱性の決定因：ブルキナ・ファソの事例

櫻井 武司（農林水産政策研究所）

16:40-17:00 シナゾンウェにおける気象観測計画

菅野 洋光（東北農業研究センター）

（司会 島田）

17:00-17:20 半乾燥地域サヘルにおける食料危機への対処行動に関する考察

ーブルキナファソ北部における事例ー

石本 雄大（京都大学大学院アジアアフリカ地域研究研究科）

- 17:20-17:40 ローカルな権力による制約下での生業戦略
 —ザンビア西部のカラハリ・サンドに生きるアンゴラ移住民の事例—
 村尾 るみこ (京都大学大学院アジアアフリカ地域研究研究科)
- 18:00- テーマごとの打合せ (各自)
- 19:00-21:00 懇親会 (カリアック内)
- 5月12日(土) 浜名湖国際頭脳センター 212号室 (Tel : 053-484-4000)
 (司会 梅津)
- 8:30-9:30 ビジネスミーティング
 現地での測器展開とテーマ間連携について
- 9:30-10:30 テーマごとの進捗状況報告と今年度の研究計画
 テーマⅠ「環境変動下での生態レジリアンスと人間活動」
 真常 仁志 (京都大学大学院農学研究科)
- テーマⅡ「農家家計は雨期のいつ、どのようにしてショックを予見するのか：
 ザンビアにおける詳細家計調査のデザイン」
 櫻井 武司 (農林水産政策研究所)
- テーマⅢ「脆弱性とレジリアンスに関するポリティカルエコロジー：
 歴史的・制度的観点から」
 島田 周平 (京都大学大学院アジアアフリカ地域研究研究
 科)
- テーマⅣ「社会-生態システムに対する統合解析」
 吉村 充則 (地球研)
- 10:30-10:40 休憩
- (司会 島田)
- 10:40-11:00 ザンビアの農業生産と土地利用
 半澤 和夫 (日本大学農学部)
- 11:00-11:20 ザンビア食糧安全保障に影響を与える経済的、社会的要因
 児玉谷 史朗 (一橋大学大学院社会学研究科)
- (司会 吉村)
- 11:20-11:40 環境変動のグローバルモニタリング
 佐伯 田鶴 (地球研)

11:40-12:00	土地利用変化と生態システムへの影響モニタリングのための予備解析 山下 恵 (近畿測量専門学校)
12:00-13:00	昼食
13:00-13:20	食糧危機の政治的・社会的要因：早魃の早期警戒指標に関する予備調査 松村 圭一郎 (京都大学大学院人間・環境学研究科)
13:20-13:40	2004/2005 年農作期収穫への早魃の影響 Thamana LEKPRICHAKUL (地球研)
13:40-14:00	広域世帯調査の概要と空間情報との融合の可能性 梅津 千恵子 (地球研)
14:00-14:20	データの空間利用・空間解析とデータ統合 吉村 充則 (地球研)
14:20-15:20	総合討論
15:20-15:30	休憩
15:30-16:00	1. 年間研究計画・旅行計画 2. 予算計画 (梅津) 3. 出版物に対する謝辞、学会発表での謝辞について 4. HP とロゴの作成について(佐伯・LEKPRICHAKUL)
16:00-17:00	プロジェクトに関する事務手続の説明 1. 国内出張・海外出張手続き・精算方法 (入江、梅津) 2. 野外調査計画書、地球研の団体保険について (梅津) 3. 調査許可について (梅津) 4. その他 (梅津他)
17:00	閉会
17:30	バスで舞阪へ移動

レジリアンスプロジェクト小樽ワークショップ

日程：2008年3月8日 8:00-18:30

会場：小樽グランドホテルクラシック・クラシックホール<http://y.gnavi.co.jp/102766/>

〒047-0024 小樽市色内1丁目8番25号 TEL.0134-25-9900 FAX.0134-25-9700

プログラム

- 8:00-9:00 テーマ別会議
- 9:00-9:15 「今年度プロジェクト活動のまとめと来年度計画」 梅津千恵子（地球研）
- 9:15-9:45 「都市における出稼ぎ労働者の実状—都市と農村の紐帯に着目して」
伊藤千尋（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）
- 9:45-10:15 「サヘル地域の農牧民による出稼ぎ導入とそのインパクトへの対応—ブルキナ
ファソ北東部I村の事例から—」
石本雄大（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）
- 10:15-10:45 「脆弱性の視点から見るアフリカ農村発展」
島田周平（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）
- 10:45-11:30 Applied research and socio-ecological resilience: social learning, people-driven
development and climate
Lawrence Flint (ENDA and RIHN)
- 11:30-12:00 テーマ1「環境変動下での人間活動と生態レジリアンス」における研究の進捗
状況」 田中 樹（京都大学大学院地球環境学学）
- 12:00-13:00 昼食
- 13:00-13:30 「ザンビア早魃常襲地帯における農民のリスク管理」
櫻井武司（農林水産政策研究所）
- 13:30-14:00 「ザンビア農村部における子どもの栄養状態・成長モニタリング調査」
山内太郎（北海道大学医学部保健学科）
- 14:00-14:30 「ザンビア南部における降水量変動と ENSO シグナル」
菅野洋光（東北農業研究センター）
- 14:30-15:00 「ザンビア南部州の気象ステーション設置報告」
佐伯田鶴（地球研）
- 15:00-15:15 休憩
- 15:15-15:45 「植生・土地利用被覆モニタリングのための衛星画像解析と現地調査計画」
山下恵（近畿測量専門学校）・吉村充則（(財)リモートセンシング技術センター）
- 15:45-16:15 RIHN Agricultural Household Survey Report, 2005/2006
Lekprichakul Thamana (RIHN)
- 16:15-16:45 「統合研究の研究組織：地球研流域プロジェクトの経験から」
梅津千恵子（地球研）
- 16:45-17:30 総合討論
- 17:30-18:30 コアメンバー会議

平成19年度レジリアンス研究会要旨

第17回レジリアンス研究会

日時：2007年4月23日（月）15:30-16:45

場所：地球研セミナー室1・2

タイトル：「アフリカの生態環境と人口扶養力」

発表者：荒木 茂（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授）

[要旨] アフリカ大陸の人口分布は、地域の生態環境に根ざした在来の生業、農業に依存して著しく不均一であり、ザンビア南部州における干ばつに対する自然的、社会的レジリエンスを考える場合も、地域農業の実態把握が不可欠である。これまでに起こったタンザニア、ザンビア、ナミビアの生態環境と農村調査をもとに、耕地の拡大と人口の動態がどのような状況にあるのかを概説し、ザンビア南部州の農業理解の一助とする。

第18回レジリアンス研究会

日時：2007年6月20日（水）15:30-16:45

会場：地球研セミナー室3・4

タイトル：適正技術のための土壌管理オプションの融合と環境変動下での生態レジリアンス

発表者：Moses MWALE（Zambia Agricultural Research Institute）

[要旨] 食料へのアクセスの不足と食料供給量の不足はアフリカでの主要な問題であり、人間の福祉と経済成長のための基本的な課題である。低農業生産は、低所得、栄養不足、リスクへの脆弱性、エンパワーメントの欠如をもたらす。アフリカ開発のための新パートナーシップ(NEPAD)は、食糧安全保障と持続的国家経済を確保するために年間平均6%の農業生産性の増加が目標である。土地荒廃と土壌肥沃度の枯渇、すなわち土壌養分の枯渇が、半乾燥熱帯(SAT)での食糧安全保障と自然資源保全に対する大きな脅威であるとかんがえられている。アフリカでは、農民に経済力を与えること、効率的で、有効な、手頃な農業技術を用いて持続的な農業集約化を推進することによって、貧困と土地荒廃の間にあるサイクルを壊すことが必要である。そのような手頃な管理システムは貧しく、小規模な生産者にとって利用しやすく、そのアプローチは技術的、制度的な変化を促進するために全体論的でありダイナミックでなければならない。本論文は、ザンビアでの土壌とその管理に基づく知識を普及することが目標である。土壌保全と保全型農業の問題を含んでいる。主な取り組みは、1. 土地荒廃を軽減するのに利用可能な技術を棚卸しすること、そして農民参加型アプローチから農民の事情を踏まえた最善の策をどのように示し、適用するかということ、2. 適切なツール、

方法、戦略の利用を通じて持続的な土地管理やマーケティングオプションのための最善の策を拡大すること、3. 環境変動下で結果として生じる生態レジリアンスを研究することである。

第19回レジリアンス研究会

日時： 2007年7月30日（月） 15:30-16:45

会場： 地球研 講演室

タイトル： 聖書を生きる

—南部アフリカの社会変動とその対応としてのキリスト教独立教会の展開

発表者： 吉田 憲司（国立民族学博物館）

[要旨] 1990年ごろを境に、アフリカのザンビア東部州では、人びとのキリスト教への入信と聖霊憑依の急激な増加をみた。発表者が過去10数年にわたって追いつけてきた、ザンビアにおけるズィオン聖霊教会の活動の現状を報告するとともに、その淵源を南部アフリカ全体に探る。

第20回レジリアンス研究会

日時：2007年11月22日（木）15:00-16:30

場所：地球研セミナー室3・4

講演者：Prof. Gear Kajoba, University of Zambia（招へい外国人研究員）

タイトル：Vulnerability and Resilience of Rural Society in Zambia: From the View Point of Land Tenure and Food Security

ザンビア農村社会の脆弱性とレジリアンス - 土地所有制度と食料安全保障の観点から

[要旨]

植民地前のザンビア農村社会では、農業システム生態系は一般的な環境条件に対し持続的かつレジリアントであり、従来の共同体的な土地保有の下で食料安全が保証された。

しかし、植民地政策による労働移動と土地分配により、Bemba族のチテメネシステムやLozi族の氾濫原での耕作等の生産システムは影響を受け、男性不在により農村地域の脆弱性が高まる結果となった。一方、ザンビア南部のトンガ族は、ハイブリッドメイズや牛耕等の近代的耕作技術を積極的に導入し、土地制度も共同体的所有制度から個人所有へと変化させ、レジリアンスの高さを示した。

1964年の独立以来、UNIP政権は強力に地域開発を推し進め、メイズ生産の補助

や、植民地政府の土地制度を維持する保守的政策を実施した。しかし、食料安全は保障されず、小規模農民が政府とメイズのみの生産に過度に依存する状態となった。

MMD 政権により 1991 年から 2001 年までに実施された新リベラル政策は、天候の不順も災いし、政策や環境変動に対する食料生産システムの脆弱性を増大させた。しかし、2001 年以降現在に至るまで、土地所有のエンパワーメント政策により、男性女性ともに土地所有を保証し、地域社会のレジリアンスを再構築するための政府の介入政策が行われており、国家と世帯の食料安全保障を推進する努力がなされている。

第 21 回レジリアンス研究会

日時：2008 年 2 月 15 日（金）15:00-16:30

場所：地球研セミナー室 1・2

講演者 1：中村哲也（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

タイトル：ザンビア南部丘陵地における農耕民トンガの生業に関する研究

[要旨] 1950 年代後半に、ザンビア南部のザンベジ河ではダム建設に伴い、大規模な人口湖がつけられた。その結果、5 万人以上のトンガ人が移住を余儀なくされ、湖畔平野部へと移動した。しかし、彼らはそこで、干ばつと慢性的な土地不足に悩まされ続けた。こうした背景のもと、平野部から再び移住する人が現れ始め、調査地はその候補地のひとつであった。

調査村は、湖畔平野部と高原地帯の間ミオンボ林に覆われた丘陵地に位置する。発表者は、平地で農業を主たる生業として暮らしてきた「農耕民」トンガが、丘陵地という環境のなか、どのような生業を営み生計を維持しているのかについて、彼らの社会構造との関連で考察することを目的としている。

講演者 2：伊藤千尋（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

タイトル：農民の生計戦略としての出稼ぎ労働—ザンビア南部州の事例から—

[要旨] アフリカ農村は農業を基盤としているが、現金経済の流入によって農業のみで生計を維持することが困難となっている。そこで、農民は生計を多様化させ、起りうるリスクに対応してきた。ザンビアの農村地域でも、農業活動は現在に至るまで重要な世帯収入源となっているが、古くから「出稼ぎ労働」をはじめとする農外活動が農家世帯の経済にとって重要な役割を果たしてきた。

ザンビアは植民地期から国内外への労働移動が盛んであったが、それらは鉱山やプランテーションへの労働力供給という文脈で発生し、現在の農村からの出稼ぎ労働とは形態も背景も異なっている。そこで、本報告では出稼ぎ労働を農民の生計戦略の一つとして捉え、農村への影響とその役割を明らかにすることを目的としている。今回の発表では、調査村における出稼ぎ労働の特徴を紹介し、その役割を検討したい。

